（24）埋立てに伴う地形改変が大阪湾内部生産有機物の堆積過程に与える影響評価

予算

平成30年度 大阪湾圏域の海域環境再生・創造に関する研究助成制度

概要

内部生産有機物の堆積状況を明らかにするために大阪湾の広域で柱状採泥調査を実施し、底質の粒度組成、有機物、金属元素の分析、一部地点については堆積物の年代測定を行った。また、過去に大阪湾広域で実施された有機物もしくは重金属を分析項目に含む堆積物調査結果を学術雑誌や報告書から探索し、大阪府が実施する公共用水域の水質等調査結果の底質データを用いて時系列解析を実施した。湾奥部の比較的閉鎖性の高い海域に調査点を設けたため、平成29年度に実施した広域調査結果と比べると、有機物、金属ともに概ね高め傾向となった。年代測定の結果では、近年大阪湾で測定された堆積速度の中ではかなり高い数値となり、埋立地により形成された閉鎖的な環境により流動が制限され、陸域から流入する土砂が堆積しやすい状況であることが示唆された。既存調査結果では、1970年代から淀川河口沖～神戸沖から関西国際空港周辺にかけて南方に舌状に伸びる海域で高濃度域が形成されており，その傾向は現在まで変わらなかったが、濃度は低下傾向にあり、高濃度域は縮小していた。時系列解析では、CODや鉛濃度で減少傾向が見られたものの、近年その傾向は鈍化していた。

担当者

秋山　諭、上田真由美、田中咲絵、横松宏幸、常本　修